

伊達地方におけるモモ急性枯死症の発生傾向

福島県農業総合センター 生産環境部 環境・作物栄養科

1 部門名

果樹－モモ－病害虫発生

2 担当者名

湯田美菜子、七海隆之、菊地幹之、安達祐介、梅津輝、藤田剛輝

3 要旨

県内のモモ産地で問題となっているモモ急性枯死症について、伊達地方の発生傾向を調査した。症状が見られる時期は9月から10月が多く、様々な品種で発生し、いずれの品種も2年生から5年生で発生が多かった。また、発生が多い年と少ない年があることが確認された。

- (1) 県北農林事務所伊達農業普及所の協力により、2018年から2021年の4カ年にわたり、モモ急性枯死症が発生した農家に対し聞き取り調査を実施した。
- (2) 発生時期は9月から10月が多く、本年は8月後半から発生した(図1)。早生品種から晩生品種まで幅広く発生しており、主要品種「あかつき」で発生本数は多いが、植栽本数が多いためであり、急性枯死症の発生には品種間差はないと考えられた(図2)。また、2～5年生の若木で特に発生が多く(図3)、既報(菅野ら、2002)と同様の傾向が認められた。
- (3) 2021年は2019年同様にモモ急性枯死症の発生が多かったが、2020年は発生が少なく、発生程度は年により差がみられた(図4)。

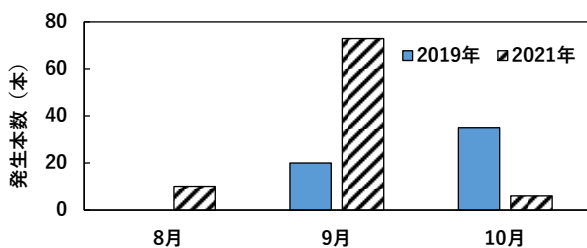


図1 モモ急性枯死症発生時期 (2019年、2021年)
注) 2019年の発生時期不明、未回答30件は未掲載

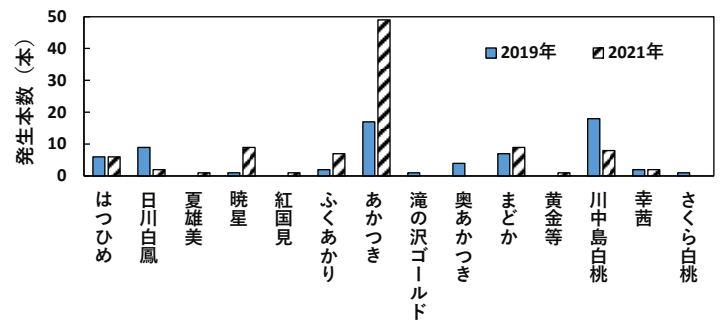


図2 品種別モモ急性枯死症発生本数 (2019年、2021年)
注) 品種の並びは収穫期順 (左端は早生、右端は晩生)

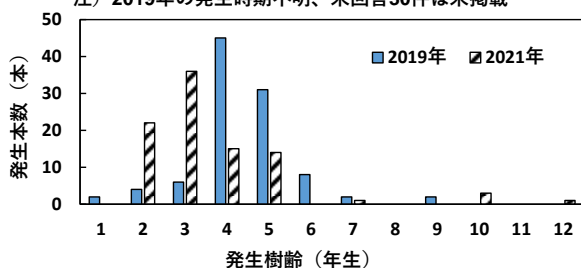


図3 モモ急性枯死症の発生樹齢 (2019年、2021年)

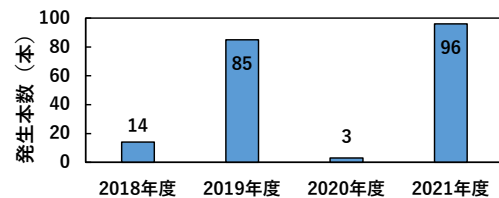


図4 伊達地方のモモ急性枯死症発生状況

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和2年度～令和3年度
- (2) 研究課題名 果樹等の幼木期における安定生産技術の確立〔農林水産研究推進事業〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 菅野英二ら, 福島県で発生したモモ急性枯死症状と病原細菌の検討, 北日本病虫研報, 53, p.137-140, 2002.